実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		松蔭大学（学部・学科等の課程）			設置者名	学校法人 松蔭学園			
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和5年度）			
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
経営文化学部	ビジネス マネジメント学科	平成 12年度	72人	中一種免（社会）	平成12年度	77人	2人	2人	0人
				高一種免（公民）	平成12年度			2人	
コミュニケーション 文化学部	異文化 コミュニケーション学科	平成 16年度	48人	中一種免（英語）	平成16年度	27人	2人	2人	1人
				高一種免（英語）	平成16年度			2人	
	日本文化 コミュニケーション学科	平成 25年度	48人	中一種免（国語）	平成26年度	44人	4人	4人	1人
				高一種免（国語）	平成26年度			4人	
子ども学科	平成 29年度	48人	幼一種免	平成29年度	21人	21人	21人	4人	
観光メディア 文化学部	メディア 情報文化学科	平成 25年度	48人	高一種免（情報）	平成26年度	16人	0人	0人	0人
入学定員合計			264人	合計		185人	29人	37人	6人
備考									

教職課程実地視察大学に対する講評

実地視察日：令和7年1月15日（水）

実地視察大学：松蔭大学（実地）

【全般的事項】

○教員養成に関する教育課程、教育研究実施組織等について全般的に基準は満たしているものの、改善が求められる点があった。今後は必要な措置を講じ、教員養成の水準の向上に努めていただきたい。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

○貴学としての教員養成に対する理念・構想が示されているが、その理念を具体化・具現化するために、事務体制も含めた教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織の充実に努めていただきたい。

○今後は、課程認定を受けている学部学科等ごとではなく、FDの実施等も含め、全学的な教職課程の運営体制を構築していただきたい。

2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教員組織

○一部の授業科目について、教職課程コアカリキュラムを満たしていないものが見受けられた。シラバス等について、再度見直しを行うとともに、シラバスが教職課程コアカリキュラムを満たしているか、教職課程を担当する教員について、適切な業績を有しているか等を改めて見直していただき、教職課程における質保証を担保するための体制を構築いただきたい。

3. 教育実習の取組状況

○教員がほとんどの実習生に対して、巡回指導等を行っていることが確認できた。

○教育実習は、大学による教育実習指導体制や評価の客観性の観点から、遠隔地の学校や学生の母校における実習ではなく、可能な限り大学が所在する近隣の学校において実習校を確保することが望ましい。今後は、地元教育委員会や付属校園等とも連携を密にさせていただき、近隣の学校における実習校確保に努めていただきたい。なお、学生の負担軽減等の観点からやむを得ず遠隔地の学校や学生の母校における実習を行う場合においても、実習先の学校と連携し、大学が教育実習にいつそう関わる体制を構築するとともに、実習期間中の学生への適切な指導方法、公正な評価が保証されるよう、今後とも努めていただきたい。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

○教職課程を履修する学生への就職等を含めた支援について、教員個人の支援に留まらず、全学的に支援する体制の構築に努めていただきたい。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

○教育委員会や関係機関等と連携・協働の推進に今後も引き続き努めていただきたい。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

○施設・設備については一定整備されていることが確認できた。

○図書館の蔵書や教職に関連する書籍が古いため、学生が最新の知識を得られるよう、最新版の学習指導要領や教科書等も含めた関連書籍の購入を今後検討いただきたい。併せて、学生が手に取りやすい書籍の配架にも努めていただきたい。

○学生が教職に就いた際に学校現場の ICT 活用状況に対応できることを見据えた学内の環境整備を検討いただきたい。

7. その他特記事項

○教員用の履修カルテを作成しており、特徴的な取組であることが確認できた。